

# 避ける ◎避ける？向き合う？決めるのは私です◎

## 【エピソード】

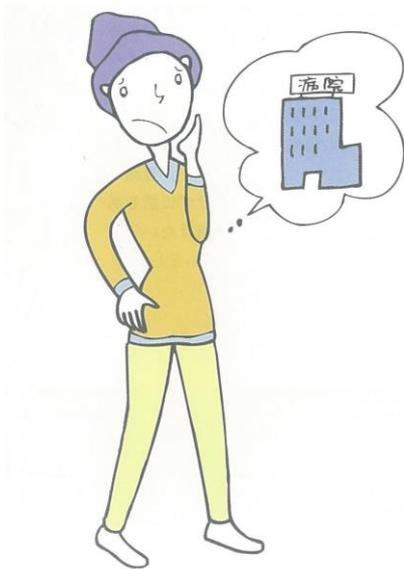
### ●走ってる時は、とまれない？

最近、体の調子が悪いなあ……。そう感じる  
ことが多くなった辰雄さんは45歳。

朝から夜まで部下を連れて得意先まわりに  
奔走する営業課の主任です。残業続きの仕事は大  
変ですが、今は、大きなプロジェクトの成功にむ  
けた準備のまっ最中。休日も返上し、無我夢中で  
仕事に打ち込む毎日が続きます。

「ゆっくり休みたいなあ」と思いながらも、仕事  
が優先。自分や家族のことは、どうしても後回し  
になってしまいます。そんな辰雄さんですが、最  
近、ちょっと気になることがあります。

これまでなら、一晩、寝ればとれた疲れが、翌  
日も残っている感じがするのです。また、みぞお  
ちのあたりが、時々、痛みます。「何の病気かな？」  
と思うときがありますが、病院に行く時間がとれ  
ません。不安な気持ちに、向きあうことを避けるため「ストレスがたまっているせいだ」と思うことで、  
自分を納得させています。



### ●あきらめの心境

そんな辰雄さんの妻、妙子さんは、仕事優先の夫を理解しようと思  
いつつも、自分や家族を後回しにされることに不満を隠せません。「最  
近、顔色が悪いけど大丈夫かしら。」毎朝、会社に出かける辰雄さん  
は、見るからに疲れていて心配も募ります。

しかしこれまでも、仕事を休むことや病院に行くことを、再三勧め  
てきましたが、辰雄さんが聞き入れてくれたことはありませんでした。  
そのうちに、心配ばかりしている自分が馬鹿らしくなってきます。「し  
つこく言っても不愉快になるだけだし、せっかく夫が家にいる時くら  
い、ゆっくりさせてあげたい」。次第に、そんな話題は避けがちにな  
っていきました。

ところが事態は急速に進展します。会社の定期健診で辰雄さんの胃に異常が見つかり、再検査通知がきたのです。「仕事が忙しいときに面倒くさいなあ」。そう思いながらも、辰雄さんは内心ドキドキしています。

実は最近、同年代の友人が胃ガンで他界したばかり。「もしかしたら、自分もガンかもしれない」という不安が急に膨らんできました。再検査のことを妻に伝えるかどうか悩みの種です。「日ごろから、うるさく注意されてるから言いにくいなあ」「どうせ異常なしなら、言う必要はないし」。そう考えた辰雄さんは、妻には通知がきたことも、自分の中にある不安も伝えないまま、再検査の日を迎えます。

再検査のために訪れた病院の受付で、問診票が渡されました。そこには、「ガンと診断された場合、ご自身に伝えることを希望しますか」と書かれています。回答欄には「はい」と「いいえ」。辰雄さんは、その文字を見ながら、しばらく考えこんでしまいました。



検査が終わった後、辰雄さんは会社に戻る道を急ぎます。「3 時からの会議には間にあうな」。段取りを組みながら駅のホームに立ったとき、ふと家族の顔がよぎり、さまざまな思いがこみ上げてきました。「今日は早く帰ろうかな」そんな気がしてきます。

いつもより早い夫の帰宅に、妙子さんは驚きを隠せません。「いったい、どうしたの？」笑顔で答えようとした辰雄さんの顔には、避けずに話しあってみようという決心と、やっぱり避けたい気持の狭間で悩む、苦渋の色が浮かんでいました。

対話の  
ために

- このエピソードを読んで、どんなところが気になりましたか？
- あなたが辰雄さんなら、この日妙子さんとどんな対話をしますか

避ける

●あなたが辰雄さんの立場なら、  
帰宅後どうしますか？

●このエピソードをよんで、  
あなたが最近避けてるな~と思った  
ことがあれば書いてください。

●あなたが避けずに  
向きあった経験があれば  
書いてください。

●あなたが妙子さんの立場なら、  
どうしますか？

1

「お母さんに、聞いてほしいことがあるんやけど」。そろそろ寝ようかなと思った昨日の夜、少し思いつめた顔で娘がそう切り出しました。私は「今日はまだ遅いから、また今度な」とだけ答えて、あわてて布団に入ったんです。その後、娘の顔を見ることはできませんでした。

娘が話したいことは、分かってるんです。恋人の A さんとは付き合ってもう 3 年。明るくて礼儀正しい、ええ人やなあと思っています。二人が結婚を考えていることも、見てたらよく分かります。私も応援してあげたい。でも、なかなか素直にそう言えないんです。

A さんは旧同和对策事業対象地域に住んでいます。そのことを理由に、差別する気はぜんぜんありません。でも、娘や生まれてくる孫が、もし差別を受けたらと思うと心配です。それに私やお父さんが賛成しても、親戚が反対するかもしれない。そんなことで、A さんを傷つけてしまうことも怖いのです。



2

B さんは、41 歳の男性。最近眠りが浅く、何事に対しても意欲がわからないので、思い切って休暇を取ろうかと考えています。月曜日の朝、いつものように家を出て職場に向かいましたが、乗り換え駅で思わず反対方向の電車に乗ってしまいました。初めて降りた街で一日をすごしながら、B さんはどうしても会社に連絡を入れる気になれません。翌日、上司である C さんに無断欠勤をわびてから、「一週間の休みを取りたいのですが」と思い切って相談しました。B さんにとってはとても勇気のいることでしたが、「プラス思考で考えれば、何事もうまくいくよ」としか応えてくれませんでした。

